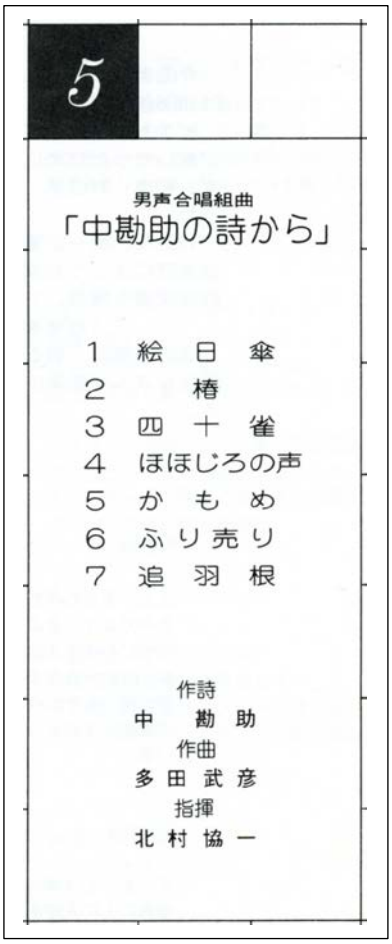
48th RECITAL 【1980 年（昭和 55 年）1 月 26/27 日】 神戸文化ホール/フェスティバル



5

男声合唱組曲

「中勘助の詩から」

1 絵日傘
2 椿
3 四十雀
4 ほほじろの声
5 かもめ
6 ふり売り
7 追羽根

作詩
中勘助
作曲
多田武彦
指揮
北村協一

大晦日から三箇日への華やかさが松の内のあいだも残り、小正月の小豆粥をすすった頃から何となくまわりの木枯に気がついて、ああまたいやな冬をすごすのかと人々が思うころ、関学グリーファンにとっては毎年もう一つの楽しみが残っていました。

この心憎いばかりの１月におこなわれるリサイタルでは、もう一度松の内の華やいだ風情が会場にあふれ、みんなしみじみとこの余韻に浸りながら、毎年名演奏に聴き惚れていました。

多くの合唱団が、「ずん胴型」の演奏をして聴衆を失望させるのに反し、関学グリーはフレージングの変化や、音の前後処理の妙などを駆使して、曲の内容を見事に表現し、聴衆に多くの感動を与えています。また多くの合唱団が、パート内のピッチが合わなかったり、色彩の役割をする筈のハーモニーが不在だったりするのに反し、関学グリーは昔から伝統的にピッチやハーモニーを忠実に守り、彫の深い響きを聴衆の心に宿して行きます。今宵演奏される拙作の「中勘助の詩から」も昭和34年根津弘君の指揮で初演されて以来、こうした関学グリーの実にきめのこまかい演奏実力のおかげで、数多くの人々に親しんでいただくことが出来ました。

昨年、めでたく80周年記念行事をおわり、90周年めざして再び一歩をふみ出すことになる今宵のリサイタルが、見事な成果を収められますことを確信し、ご挨拶をおわります。

多田武彦

作曲家